

## IKGの旅館経営再生塾

### 第240回 まず自らの行動パターンを変える

㈱飯島綜研 代表取締役社長 孫田 猛

旅館が自ら再生するためには、経営者のものの考え方、行動パターンを変えていく必要がある。

この前提として、経営状況が悪化したのは、大部分が経営者の責任と自ら捉えることである。さて、ある旅館では過去二十五年にわたって、売上高・経常利益・入込み数・借入残・繰越利益(欠損)の推移の一覧表を取りまとめた。この結果、平成に入ってからのある時期をピークに、現時点では売上が半分以下に落ち込んでしまった。この経緯をしばらく見つめていた旅館経営者は、自社の経営成績が常に世の中の外的要因に左右され続けてきたことに気づいたという。

本来、経営者は自身の意思と行動で経営の結果を導き出すべきである。そうでなければ経営者の存在意義がない。

そして考え抜いた結論は、まず「自分が変わる」ということである。そこで「経営者の一日の行動」を棚卸してみた。その結果、いかに自分が無駄な動きをしていたかを痛感したという。

今後の行動の基軸として「それは旅館にとって有益なことか？」を問うことにより、行動すべきこと、しないことを見極めていくこととした。そしてそのことを社員に宣言し、自分の行動をあえてガラス張りにした。

宣言することにより、必ずやらなければならない状況にあえてしなければ、結局はある時点で甘えが生じ、頓挫してしまう。特に経営者は自分を管理してくれる立場の人がいないだけに、無意識のうちに自分だけが例外というものさしを作ってしまう。自己管理に自信のない人にとって、「宣言」は有効な手段である。

この結果、この旅館はスタッフに事細かに指示を出す前に、経営者自らが率先して行動を起こすことに、周りのスタッフが自然に追随することとなった。

人は一般的に変化を嫌う。今までの行動パターンが楽なのである。でも本当にこのままでいいのかということを自問自答し、意を決して自らを変えたときに、明らかに廻りも変わってくる。

旅館再生は自分の再生から。そのための一歩は、一日の行動パターンからの再生からスタートする。

<http://ik-g.jp>

[magota@ik-g.jp](mailto:magota@ik-g.jp)